

# 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会による広報

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会  
企画情報部長 井田 朋宏

## 1. 協会ビジョン「スポーツを通じた共生社会の創造」

障がいのある人もない人も等しく、それぞれのライフステージに応じて、生涯にわたり、スポーツの価値を享受できる社会を創造する。

## 2. ビジョン実現のための広報の基本方針

障がい者スポーツファンを増やし、心のバリアフリーを広げる

## 3. JPSA/JPC アクションプランに基づく広報事業

(1) 広報媒体の充実と活用 (2) 広報事業の実施 (3) メディアとの連携

## 4. 広報事業の例

### (1) 広報媒体の充実と活用

- ・パラリンピックガイドブック、競技別ガイドブックの作成・配布
- ・ソチパラリンピック日本代表応援PVの制作・PR

別添 冊子参照  
映像紹介(2')

### (2) ジャパンパラを契機とした啓発

#### ① ウィルチェアラグビー大会(5/22-24 千葉ポートアリーナ)

- ・学校へのPR  
市内全校にポスター配布  
市内小学校(3校)での体験会・選手講話+大会観戦(500名予定)

- ・市民啓発  
千葉駅構内にポスター掲示  
千葉市モノレールに中吊り広告  
市広報事業

#### ② ゴールボール大会(7/31-8/2 足立区立総合スポーツセンター)

- ・学校へのPR  
市内全校にポスター配布  
市内小学校(2校)での体験会・選手講話+大会観戦 計画中
- ・区民啓発  
区民対象の体験会・選手講話(7/5)+大会観戦

#### ③ 水泳大会(9/5-6 江東区東京辰巳国際水泳場) PR事業 実施予定

#### ④ 陸上大会(9/19-20 長居陸上競技場) PR事業 実施予定

### 体験会実施上の留意点・課題

- ① 平日実施の場合の選手の確保
- ② 体験用用具の手配
- ③ 「学び」として体感してほしいこと
  - ・スポーツそのものの魅力は一般のスポーツと同じ
  - ・アスリートとしての魅力も一般のスポーツと同じ
  - ・残された機能の最大化と創意工夫で不可能を可能にすること

### (3) メディアとの連携

- ・関係メディアによる情報共有活動への協力(パラリンピック基礎知識や報道のあり方等)
- ・メディアによるPR番組やイベント等への協力  
企画内容への助言、NFや選手の紹介、パネルや映像貸出など

## 小学校体験会

学校: 千葉市立弁天小学校

時間: 1限・2限(8:35~10:00) 5、6年生が対象

3限・4限(10:30~12:10) 3、4年生が対象

参加人数: 119名(3年生27名、4年生33名、5年生23名、6年生36名)

参加選手: 7名(うち3名が2015ジャパンパラ日本代表選手)



競技映像視聴



デモンストレーション



体験



講話



質問、交流



記念撮影

# ロンドンパラリンピックのPR事例

## 1. パラリンピック協賛社(セズベリーズ)によるパラリンピック盛り上げ活動

<方針>

- A. CSRではなくマーケティング活動として取り組む
- B. パラリンピックに対する親和性を高め、競技の人気を盛り上げる
- C. 馴染みのないスポーツやスター選手のことを国民に紹介する
- D. 選手の障がいではなく実力を見せ、スポーツとしての価値を向上させる
- E. ホスト放送局であるチャンネル4とのコラボレーションで最大の効果を図る

### ①社員を支持者にする

- ・社員全員がパラリンピックスポーツを体験
- ・社員がゲームズメーカー(観客)として1日当り150~5000人が観戦

### ②営業地域の学校と関わりを持つ

- ・2005年から「ミリオン・アクティブ・キッズ・チャレンジ」開始  
当初目標100万人→8000校・240万人以上達成
- ※「ミリオン・アクティブ・キッズ優勝校をベッカムが訪問  
→活動の様子をチャンネル4で放送

## 2. ホスト放送局(チャンネル4)によるパラリンピック盛り上げ活動

### ①障がいのある新たな才能の紹介に力を入れる

### ②パラリンピックスポーツを気軽に楽しめるようにする

### ③史上最高のパラリンピック番組を作る

### ④史上最高のパラリンピックCM

- ・「ミート・ザ・スーパーヒューマン」制作・放送

## 3. 英国、UKスポーツ、組織委員会、IF 等の取り組み

### ★イギリス国民としての誇りを喚起

- ・多様性を認める国であることのPR(様々な人種の選手ポスターを街中に掲示)
- ・「ヒーローパレード」の実施  
オリンピック・パラリンピック活躍の約800人の選手と一緒に凱旋パレード

## 1 ロンドン在住邦人のためのパラリンピックセミナー

日時:平成 23 年 10 月 16 日(日)11:00~13:30

場所:Millennium Gloucester Hotel London

定員:60 名

### 【プログラム】

- ・これまでのパラリンピックとロンドン大会 (JPC 事務局長 中森邦男)
- ・「声援を力に 皆さんへのお願い」(北京パラ団長 大久保春美)
- ・ロンドン大会注目の競技・アスリート (シドニーパラ代表 根木慎志)

## 2 2012 ロンドンパラリンピックジャパンハウスの運営

目的:①日本代表選手団の応援拠点としての情報提供

②東京 2020 オリンピック・パラリンピックの招致活動の推進(国際活動以外)

③ロンドンでの JPC 役員の活動拠点

期日:平成 24 年 8 月 29 日(水)~9 月 9 日(日) 計 12 日間 9:00~21:00

場所:ノボテル・エクセルホテル1F

内容:パラリンピック紹介コーナー(映像による競技紹介、競技車いすの展示等)

日本代表選手団応援コーナー(競技インフォメーション、メダル獲得速報等)

## 3 ロンドン日本人学校での講演会

目的:在校生が進路を考える一環として、ロンドンまたは世界で活躍している方を講師に招き、様々な人の生き方や人生観を聞くことで視野を広げ将来の展望を抱くことが出来るような機会とする。

日時:平成 24 年 9 月 3 日(月)13:00~16:00

場所:ロンドン日本人学校

対象:中学部全生徒、小学部5・6年児童と全校保護者、小学部1~4年児童

内容:講師として車椅子バスケットボールシドニーパラ代表の根木慎志を派遣。演題を「夢」とし現役選手の時の夢を追う過程、現役後の夢について講演を行った。また車椅子バスケットボール用の競技車いすを持参し、デモや生徒たちの試乗なども行った。

## 4 帝京ロンドン学園での講演会

日時:平成 24 年 9 月 6 日(木)11:30~14:30

場所:帝京ロンドン学園(ロンドン市内)

対象:ロンドン帝京学園全生徒(70 名)職員及び近隣在住者

内容:講師として車椅子バスケットボールシドニーパラ代表の根木慎志を派遣、講演を行った。また車椅子バスケットボール用の競技車いすを持参し、デモや生徒たちの試乗なども行った。